

2024年度病院勤務医の負担軽減の計画

2024年7月1日 京都民医連中央病院

項目	現状	目標	達成状況
			2025年3月
医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担の具体的内容	退院支援ラウンドの継続出来ている。PFM(ペーシェントフローマネジメント)チームで入院前から退院までの流れの整理、業務の振分け継続調整中。ポケさぼ使用による業務軽減を検討。	退院支援ラウンド:毎週火水木の午前中ラウンド継続。PFMチームで業務整理の拡大、さらに質の向上を目指す。	
医師事務作業補助者の体制拡充	パスによる標準化を少しずつ拡充出来ている。多職種との連携もスムーズに出来ている。	パス使用による業務の標準化、多職種とPFMチームでタスクシフトしながら業務をつなげていく。診療支援課の増員を継続募集。	
勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施	維持できている。医師確保は継続課題。	引き続き医師の確保に努める。特に外科系医師確保に努める。	
勤務間インターバルの確保	概ね早期退勤出来ている。	引き続き超勤時間の削減を目指す。	
予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	努力している。併せて非常勤医師確保は継続課題	非常勤医師を確保し、日勤帯の当番、当直の医師確保を継続して行う。予定手術前日の当直は外すなど調整する。	
当直翌日の業務内容に対する配慮	当直翌日の朝は業務フリーおよび午後の勤務免除、もしくは一週間以内に半日勤務免除の制度あり。	当直翌日の朝は業務フリー。当直翌日午後の勤務免除もしくは一週間以内に半日勤務免除を取得できる。	
主治医制の見直し実施	若手医師や時短取得医師と上級医との複数担当、少数科の複数制など実施できている。	紹介逆紹介しながら、地域の診療所・クリニック等との複数主治医制を行う。院内の入院主治医複数担当を広げていく。	
短時間正規雇用医師の活用	7名維持している。7月31日に時短勤務希望者1名増予定。	8名以上を目指す。	